

協働ハンドブックあんじょう

コネクト

Vol. 2

暮らしやすい安城市をめざし
まちづくりを「協働」する！

市民、町内会、団体、
企業、学校、行政etc…
この冊子には団体同士
が力を合わせて暮らし
やすい安城市にするた
めの活動が紹介されて
います。

目次

はじめに.....	P1
-----------	----

〈今回紹介する協働事業〉

事例 1 : ふれあい田んぼアート安城.....	P2
--------------------------	----

ふれあい田んぼアート実行委員会×市民活動団体

事例 2 : 七夕まつりボランティアコーディネート.....	P4
--------------------------------	----

team “LOVETANABATA” ×七夕まつり協賛会

事例 3 : 高齢者お出かけ見守り隊.....	P6
-------------------------	----

特定非営利活動法人ing×中央地区社協×
けいかデイサービス×本通り福祉委員会

事例 4 : 地域行事支援.....	P8
--------------------	----

こどう
鼓童×町内会×その他の地縁団体

事例 5 : ふれあい喫茶「わくわく」.....	P10
--------------------------	-----

北明治福祉委員会×安城市民交流センター

今回紹介事例の協働の仕組み.....	P12
--------------------	-----



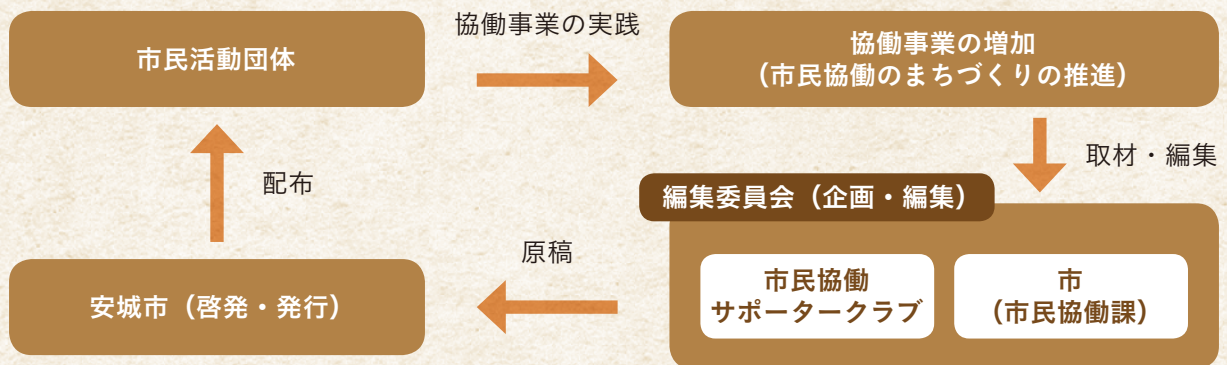
はじめに

コネクトってなに？

「協働ハンドブックあんじょうコネクト」は、安城市が発行する市民活動団体の協働事例集です。しかし、ただの事例集ではありません。ポイントは3つ！

- 1 今回は、市民協働のまちづくりを主体的に進めていく市民を養成するために、平成28年度に市が開催した講座「まちづくり人養成講座（中級編）」の受講生が取材した事例を中心に掲載しています。
- 2 この事例集自体も、市と市民協働サポータークラブとの協働で作られています。
- 3 協働事例の紹介は、今後も継続していく予定です。

コネクト作成の流れ

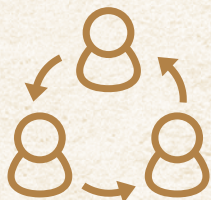


協働ってなに？

協働の効果は、団体同士がそれぞれの考えを理解した上で、得意分野を持ち寄って補完することで、大きな成果を生み出すことです。

協働することによって、ひとりでは出来ないことも、達成できるかもしれません。

みんなで
つながると…



いろんなことができる！

例えば
こんな
ことも…



地域の交流の
場をつくったり



大きなイベントを
開催したり



知識を持ち寄って
冊子をつくったり



豊かな学びの
場をつくったり

もっと素敵なまちに！



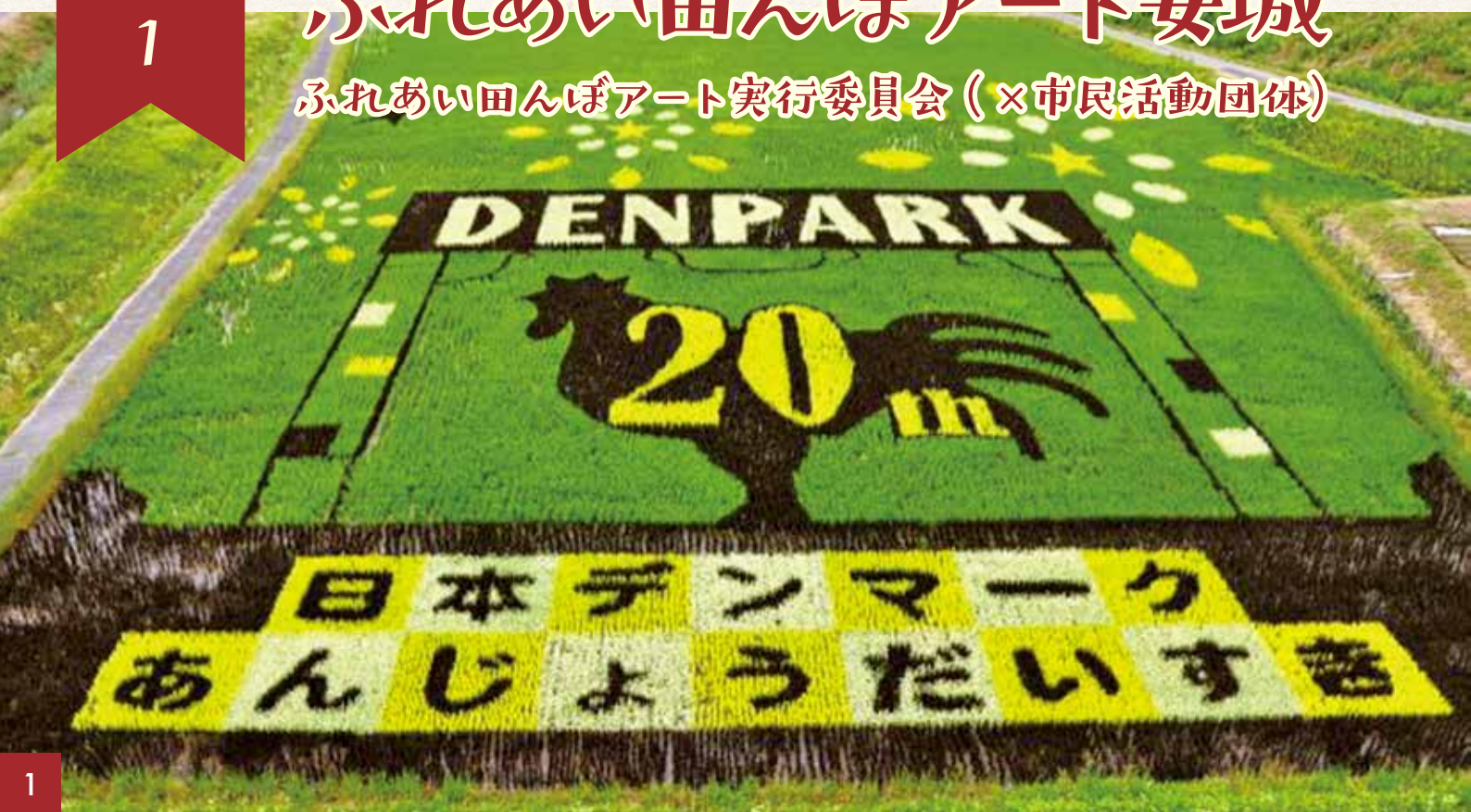
では、最初の一步！

これから紹介する5つの事例では、協働することで大きな成果をあげています。

あなたも協働への一歩を踏み出してみませんか？

ふれあい田んぼアート安城

ふれあい田んぼアート実行委員会（×市民活動団体）



「日本デンマーク」安城で大切に受け継がれてきた農業を守り育て、更に盛り上げる

安城市和泉町にある田んぼ（デンパーク正面ゲートから西へ 400 m）に、さまざまな色の稲を植えて絵を描きます。5月中旬に田植えをし、もっとも色の映える7月頃に鑑賞会などのイベントを開催、9月中旬に稲刈りします。

■事業概要

「ふれあい田んぼアート実行委員会」が中心となり、デンパーク近くにある田んぼを会場とし、田植え・鑑賞会や収穫祭などのイベントを通じて、生産者、加工業者及び消費者の交流を生み出し、食の安心安全のPR、地産地消及び食育を推進しています。

■協働のきっかけ

これまでも農業体験や地産地消・食育イベントは市内で開催されていましたが、更に安城の農業を盛り上げ、市民の皆様に興味を持っていただけるイベントを検討する中で、青森県田舎館（いなかだて）村で行われていた田んぼアートに注目し、これを安

城市内で開催することになりました。

その際、田んぼに描くデザインは安城や安城の農業に関するものがふさわしく、企業のPRが含まれることは好ましくないと判断しました。そこで、米・麦・大豆の生産者、地元加工業者、JA あいち中央で構成する「一粒の会」が中心となるのではなく、別組織の「ふれあい田んぼアート実行委員会」を立ち上げました。





1. 「デンパーク開園 20 周年」を記念した 2017 年の絵柄
2. ふれあい田んぼアート 2017 田植え
3. ふれあい田んぼアート 2017 鑑賞会
(高所作業車を利用した展望台)
4. ふれあい田んぼアート 2017 鑑賞会
(展望台から見た田んぼアート)

■プロセス・役割分担

ふれあい田んぼアート実行委員会を中心として、市民活動団体のほか、安城市や市内の学校と協働して田んぼアートの作成やイベントの運営を行っています。

イベントの運営は、実行委員会、市民活動団体や市内の高校生ボランティアが中心となり、近隣の小中学校には、田んぼアートデザインの公募に協力していただいています。

■成果・課題

成果は、多くの市民参加のもと、平成 19 年度から平成 29 年度までの 11 年間続けて開催できたことです。それにより全国に安城を PR し、安城の農業を盛り上げることができました。

課題は、田んぼアートの設計や田植え前の測量に関して、特定の個人に多くの負担をおかけしていることです。



今後は、組織として役割を分担したり、後進を育成することなどを通じて、今後も継続して事業を続けていける体制を構築したいと考えています。

■協働のポイント

イベントの運営は、ふれあい田んぼアート実行委員会と、市民活動団体を中心となって行いますが、愛知県立安城農林高等学校をはじめ、市内の高校生の皆さんにも、自発的にボランティアとして参加いただいています。

また、田んぼアートのデザインは公募で決定しますが、デンパーク周辺の小中学校にご協力いただき、生徒の皆さんに多くのアイデアを提出いただいています。

ふれあい田んぼアート実行委員会

設 立：2007 年

目 的：生産者、加工業者及び消費者との交流を生み出し、安城の農業を盛り上げる

主な事業：田んぼアートの田植え、鑑賞会や稲刈り等のイベントを開催



七夕まつりのボランティアコーディネート team“LOVETANABATA”（×安城七夕まつり協賛会）



安城七夕まつりが「市民のまつり」であり続けるために

安城市民が主体的に七夕まつりに参加するために、主催者である安城七夕まつり協賛会と連携して、team“LOVETANABATA”が個人のボランティアのきっかけづくりをコーディネートします。

■事業概要

安城七夕まつりは商店街の夏枯れ対策として、今から65年前の昭和29年に始まり、現在では、100万人以上の来場者を呼び込む、市民参加型の一大イベントになっています。

生粋の安城市民にとっては子どもの頃から数々の感動を積み重ねてきたかけがえのない思い出の場であり、新しく移り住んだ人にとっても他市の知人などに誇れる大切なイベントです。

「team“LOVETANABATA”」は、市民が七夕まつりを通してまちへの愛着を深め、生きがいの場としても活用できるようボランティア参加のコーディネートを行っています。

■協働のきっかけ

安城七夕まつりは、安城市と商工会議所が事務局となり、事業を展開していましたが、イベントが大きくなるにつれ、事務局が数あるイベントへのボランティアをコーディネートすることが困難になってきました。

そんな中、2009年に主催者である安城七夕まつり協賛会市民部会（現在の事業部会）の有志メンバー

の発案により、団体（team“LOVETANABATA”）を立ち上げたことがきっかけです。

■プロセス・役割分担

安城七夕まつりの運営は、安城七夕まつり協賛会が中心となり、団体は、イベントのサポートや当日及び準備期間中のボランティアの受け皿の役割を担っています。

団体は、それぞれメイン会場などで願い事関連のイベントをサポートする「願い事グループ」、まつりの名物となる巨大竹飾りを製作する「竹飾りグループ」、駅前に設置された案内所を運営する「ガイドグループ」、環境に良いまつりをサポートする「エコグループ」の4つで構成され、他の団体や事務局と連携して活動しています。

グループのメンバーは、一般公募のほか、安城学園高校や近隣の大学、アイシン・エイ・ダブリュ株式会社をはじめとする企業などにも呼びかけて募っています。

■成果・課題

「team“LOVETANABATA”」のような団体が存在す



願いごとふうせん受付の様子



巨大竹飾りの制作



エコグループのゴミステーション



巨大竹飾り (JR 安城駅南側)

ることにより、初めて安城七夕まつりに参加する人も気軽にボランティアに応募できるようになり、2017 年度には約 120 名のボランティアをコーディネートしました。

課題は、各グループのリーダーやコーディネーターの人材不足、団体内の世代交代が進まなくなっていることや新規メンバーの開拓があります。

また、七夕まつりを取り巻く課題としては、商店街の衰退や後継者不足（高齢化）によって、竹飾りを新たに作る店舗が減少していることが挙げられます。

竹飾りは、安城七夕まつりにとって必要不可欠な風景であり、それを維持するため、安城七夕まつり協賛会からの商店街への補助金もあります。それでも竹飾りが増える兆しがないため、一般市民や企業からの竹飾り出品を増やしていく必要があります。

またそれをコーディネートする人材も必要となってきています。

■協働のポイント

商店街の夏祭りとして始まり、市との協働を経て「日本三大七夕」と呼ばれ、「願いごと、日本一。」というキーワードを掲げるほど発展してきました。集客面では、安定した成果を期待できるイベントに成長しましたが、「市民のまつり」として定着するには、さらなる市民参加やボランティアの機会を創出していくことが重要です。

当団体は安城七夕まつり協賛会の事業部会に所属しており、会議に出席して企画立案することが可能です。また、イベント立案やボランティアコーディネートができる経験豊富な人、当日汗をかいて貢献できる人、さまざまなタイプの人々が能力を発揮できる場が提供できています。

team “LOVETANABATA”

設立：2009 年

会員数：10 名（2017 年ボランティア参加者約 120 名）

目的：安城七夕まつりを「市民参加のステージ」とすること

主な事業：安城七夕まつりの様々な事業サポート



高齢者お出かけ見守り隊

特定非営利活動法人 i n g

(×中央地区社協×けいかデイサービス×本通り福祉委員会)

高齢者が最期まで生きがいを持ち、
安心して生活できるしくみ作りを協働で実現！

現代社会の大きな課題である「高齢化と生きがい」。最期まで生き生きと生活したいというのはみんなの願い、外出したいけど、ひとりでは出来ない高齢者にどのようなサポートができるのか？その答えは、「高齢者お出かけ見守り隊」の結成でした。

■事業概要

この事業は、健康不安や家族への遠慮などから外出がおっくうになった高齢者の、認知症や運動不足の予防や、行きたい場所に自由に行くことで、高齢者のみなさんの生きがいを支えることを目的に、外出を希望する高齢者に、有料で付き添う事業です。

■協働のきっかけ

社会の高齢化が進行する中で、高齢者が最期まで生きがいを持ち、安心して生活できることをサポートする仕組みは何なのか、サポートの担い手である中央地区社会福祉協議会、シルバー人材センター、中央地区民生児童委員協議会、ケアマネージャー、介護者おしゃべりサロンの皆さんにお話を伺い、その仕組みと可能性を探ったことが始まりでした。

■プロセス・役割分担

(1) 中央地区社会福祉協議会

住民のニーズを地域福祉の視点で最も把握できているのは、町内福祉委員会をサポートしている社会福祉協議会です。町内福祉委員会だけでなく、中央地区民生児童委員協議会、ケアマネージャー、

介護者とのパイプ役となり、アンケート、ヒアリングを実施しました。

(2) けいかデイサービス

中央地区にある介護事業者として、日の出町町内福祉委員会に場の提供をしたり、認知症の利用者と町内の清掃活動をしたり、地域に開かれた福祉事業所です。そこで、見守り専門のボランティアを養成する「高齢者お出かけ見守り隊養成講座」のうち、認知症理解講座を担当し、実習先として、利用者のいない日曜日に場所を提供してもらいました。

(3) 本通り福祉委員会

特定非営利活動法人 i n g の拠点がある町内福祉委員会には、i n g のスタッフ4人がこの福祉委員会に含まれており、ヒアリングやアンケート内容など、仕組み作りに向けた打ち合わせを一緒に行いました。

■成果・課題

平成28年5月から10人の見守り隊員で活動を始め、平成29年7月までに、月平均34件の利用がありました。見守り隊によって通院だけでなく一人住



2

1. ing ハウスに集まって来た高齢のみなさん
2. 平成 28 年 4 月 28 日付中日新聞夕刊に掲載された紹介記事
(中日新聞社の許諾を得て、転載しています。)
- 3.4. 高齢者見守り隊養成講座の様子

まい高齢者の介護予防や公民館講座への参加なども増えつつあります。地域包括支援センター、福祉事業所との連携の形ができ、「ing ハウスここから」で開催している『元気カフェ』の利用件数も増加しています。一方で、外出に伴う身支度や薬の飲み忘れチェック、買い物の運搬や冷蔵庫内のチェックなど、生活支援には切れ目ががないため、活動領域の線引きが難しくなって来ています。

平成 29 年 3 月には、ヘルパー、介護事業所と連携し、体調不良時のための買い物代行を開始。7 月には安否確認を含む早朝ゴミ出しなど生活支援も始まりました。

課題としては、見守り隊の活動時間が集中するため、シフトを組むことが困難なことです。そこで例会を月 2 回開催し、専用電話の設置や予定表を作成し隊員同士の情報共有を図っています。隊員を増やすため、講座も開催しています。また、報告書の作成、利用者の個人情報や見守り隊会員名簿の管理、活動費支払いの会計処理など運営上の業務が増えたため、



3



4

NPO の運営基盤そのものの整備を行いました。認知症対応や終末期対応も増加傾向にあり地域包括支援センター、福祉事業所との情報共有や連携の在り方も今後の課題です。

■協働のポイント

この事業は、まだ元気なうちから、外出支援を実施し、介護予防をする介護保険にない事業の創出です。

社会福祉協議会、町内福祉委員会、シルバー人材センター、ケアマネジャー、民生委員、介護経験者など、高齢者福祉に関わる様々な人たちから、詳しく話を聞くことにより、実現可能な仕組み作りができました。福祉事業者ではなく有償ボランティアである見守り隊は、高齢者が人生の最後まで住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるように、責任を持って関わっています。

地域包括ケアシステム的一端を担う新しい仕組みは、動き始めたばかりです。



特定非営利活動法人 ing

設立：1993 年 会員数：98 人

目的：生涯学習社会の実現を目指し、その基盤整備および様々なライフステージにおける学習機会の提供と心理的援助、また、生涯学習の成果活用によって、生きがいのある人生を全うできるまちづくりに寄与する。

主な事業：つどいの広場事業

安城市高齢者地域生活支援等実施団体活動支援事業

地域行事支援

こどろ
鼓踊 (×町内会×その他の地縁団体)



地縁団体と町内会が協働で取り組む地域行事

地縁団体が主体となって行事を運営することで住民参加を促進し、幅広い年齢層の顔の見える関係づくりを目指します。

1. 鼓踊の法被
2. 盆踊り練習
3. 太鼓講習会

■事業概要

(1) 福釜町盆踊り

地縁団体「鼓踊」が主体となって実施しています。町内会及び神輿会、月曜会、消防団と鼓踊が実行委員会を立ち上げ、盆踊り練習、太鼓講習、盆踊り本番など全面的な運営にあたります。

(2) 祭礼お菓子まき

福釜町祭礼にて厄年にあたる人（男性 25 才、女性 19 才）から希望者を募り、祭礼当日に厄払い神事を受けることができるように活動しています。祭礼の余興として、彼らと一緒に幼児へのお菓子まきを実施しており、お菓子購入資金を得るために彼らと共に資源回収を行います。

■協働のきっかけ

以前、盆踊りは、地域の青年団が行っていました。20 年程前に後継者がいなくなり消滅したため、町内会が主体となり元青年団の有志が協力するかたちで実施するようになったのが協働の始まりです。

■プロセス・役割分担

元青年団の有志メンバーは、年々減少し、新規加

入希望者も現れません。そこで、盆踊りの魅力を再考し、「幾重もの踊りの輪ができ、参加者が一体となった高揚感」、「やぐらの上で太鼓を叩く爽快感」などを伝えるため、子どもへの太鼓講習会や、創作踊りを毎年 1 曲新たに加えるなどの様々な活動に取り組みました。こうした活動を続けているうちに、参加者が増えていき、2009 年に「鼓踊」を立ち上げ、現在の協働の形となりました。

盆踊りにおける役割分担は、実行委員会を立ち上げ、盆踊りの企画運営を行います。具体的には「踊り練習会」と「子ども太鼓講習会」は鼓踊が担当し、盆踊り会場の設営は、町内会役員、消防団、鼓踊が担います。盆踊り当日は、町内会が受付、かき氷、飲み物、神輿会が食べ物を担当します。月曜会は盆踊り曲の一部の歌唱と音響、消防団が警備を担当します。会計は鼓踊が担当し、盆踊り終了後に町内会へ会計報告をします。

祭礼お菓子まきは、鼓踊は企画、お祓い希望者の募集、資源回収、お菓子の購入を担います。神社奉賛会は厄払い神事を行い、鼓踊と厄払い参加者で小学校就学前の子ども及びその保護者を対象にお菓子まきを実施します。



4



5



6



7

4. 盆踊り本番 6. 神輿会屋台
5. お菓子まき 7. 資源回収

■成果・課題

福釜町の盆踊りは、練習から会場設営、本番、片付けまで、のべ12日間となり、夏季連休と重なることもあり、町内会にとって負担の多い行事です。鼓踊が主体となって活動することで町内会は負担軽減、鼓踊にとっては、補助金の範囲内で企画運営させてもらえることで、やりがいにつながっています。

また、他の団体との横の繋がることで、幅広い年齢層の顔の見える関係づくりができています。鼓踊の若いメンバーが活動することで、盆踊りに若者も多く参加するようになりました。しかし、諸事情によるメンバーの退会がありますので、新規メンバーの発掘が課題です。そこで、若い人たちと知り合うきっかけづくりのしくみを用意しており、小学生向けの太鼓講習会もそのひとつです。太鼓を通して盆踊りを体験した小学生が、大学生や社会人になった時に、鼓踊の活動を理解しやすいと考えています。

祭礼お菓子まきも、若者に参加を促す機会として2010年から始めました。男性25才、女性19才の厄払いをの申込みなどの手続きを、鼓踊が担うこと

で、お祓いが受けやすくなり、毎年数名の参加者が集まっています。

また、お菓子の購入資金を得るために、参加者と協力して資源回収を実施することで気心も知れ、話しかけやすい関係を築けており、参加者の中には鼓踊への入会者もあります。

■協働のポイント

町内会は、地縁団体との間で役割分担とルールを決め、予算の範囲で自主性に任せる寛容な姿勢がポイントになります。更に役員などの人的サポート、備品、会場の貸し出し、回覧板などの広報を支援する必要があります。

地縁団体は、自らが主体となって企画運営することで、スキルを身につけ、他団体と新しい協働モデルをつくり、アイデアを実現していきます。そこに、責任感とやりがいを感じ、次のステップへのモチベーションが高まります。それが地縁団体継続の原動力にもなると思います。

鼓 踊

設 立：2009年6月 会 員 数：20名

目 的：福釜町民の親睦と子どもたちの健全な育成に寄与することを目的とする

主な事業：町内盆踊り、祭礼お菓子まき、資源回収



ふれあい喫茶「わくわく」

北明治福祉委員会（×安城市民交流センター）



協働で取り組む地域に密着したふれあい喫茶「わくわく」

高齢者の見守りや介護予防だけでなく、世代を超えた市民相互の交流を通じて“健幸（ケンサチ）”のまちづくりにつながるサロン活動を、平成26年7月からふれあい喫茶「わくわく」として開催しています。

■事業概要

北明治福祉委員会と安城市民交流センターは、市民交流センターで「ふれあい喫茶『わくわく』」を平成26年7月から実施しています。

「ふれあい喫茶『わくわく』」は、単なる喫茶だけでなく、高齢者の介護予防体操等様々なイベントを同時に開催しています。これにより、高齢者の居場所や見守りの場となるだけでなく、隣接する安城保育園の園児や近隣小学校児童との世代を超えた市民相互の交流を促進し、安城市が進める“健幸（ケンサチ）”の実現を目指しています。

■協働のきっかけ

市及び社会福祉協議会が推進する見守り活動の強化を目的に、各地域にサロン活動が奨励され、北明治福祉委員会でも実施することとなりました。

サロンの開催にあたり、地域の住民が集まりやすい安城市民交流センターでの開催を考え、相談した結果、市民交流センターの自主事業として、北明治福祉委員会と協働して実施することとなりました。

■プロセス・役割分担

喫茶の運営は北明治福祉委員会が行い、安城市民交流センターは、毎週水曜日午前9時～正午に開催できるよう、「場の確保」に関して協力をしています。また、高齢者向けのイベントを実施する講師等の相談・提案もして、地域の方にとってよりよいサロンとなるよう協力しています。

■効果・課題

地域のネットワークを活用しながら、1人暮らしや高齢者世帯、障がい者等の社会的弱者への見守りや、互いに見守り合い支えあうシステムづくりができました。人と繋がることで心身の健康維持や脳の活性化、認知症予防、リハビリ効果、生活習慣病予防など、様々な介護予防効果が出ています。課題としては、参加者が毎回100人を超え、軽度認知症の参加者も増えつつあることで、サロン会



保育園児の礼儀作法・お抹茶体験



1



2



3



4

1. 八千代病院による高齢者生活と健康講座
2. 介護予防体操
3. 保育園児による踊りのプレゼント
4. 保育園児と声掛けふれあい風景

場内の見守りや市民交流センターへの送迎が当番スタッフだけでは難しくなっていることです。

活動を継続していくためには、さらなる協力者や協働する団体を見つける必要があります。

送迎については、現在は企業等の協力で一部参加者の送迎を行っていますが、今後も送迎希望者が増えていることが予想され、それに対する対応も課題です。

■協働のポイント

安城市民交流センターと協働することで、決まった日時で安定的に開催できるようになりました。3年間が経過したこの協働事業も安城市民交流セン

ターご利用のお客様にも認知を受け、他団体の皆さんにも参加利用頂いております。



保育園児によるふれあい交流体操

北明治福祉委員会

設 立：平成 23 年 4 月 1 日

会 員 数：131 名

目 的：地域に密着した誰でも参加しやすいふれあい活動の推進

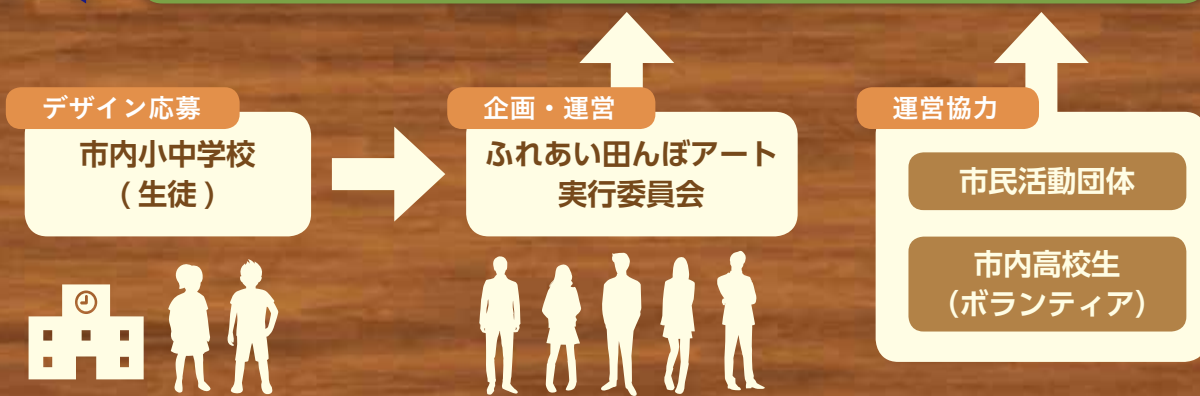
主な事業：ふれあい交流の場の提供、介護予防、見守り活動、心配事・困りごと相談、福祉調査・研究、健康増進、安全対策（防災・防犯・交通安全）、子供の健全育成、ネットワークづくり



それぞれの事例の協働の仕組み

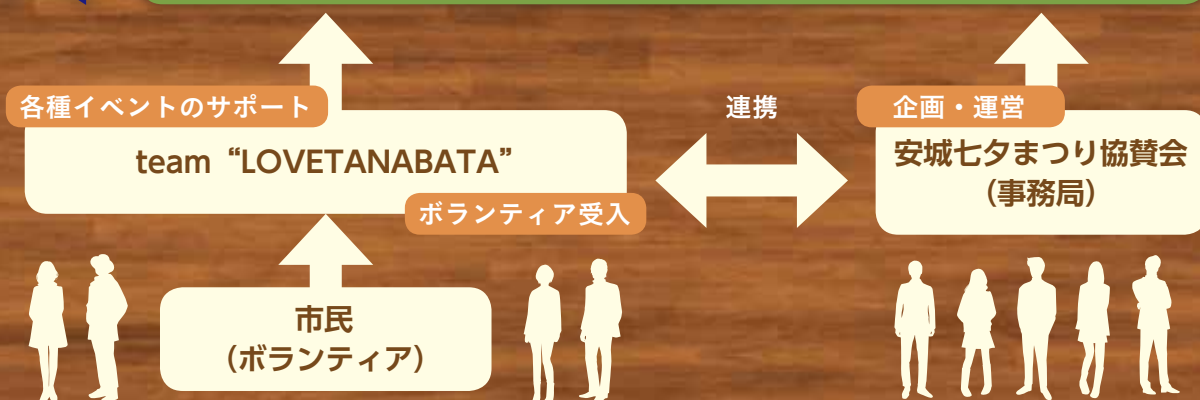
事例 1

ふれあい田んぼアートに関する各種イベント



事例 2

安城七夕まつり



事例 3

高齢者お出かけ見守り隊



事例
4

地域の盆踊り

福釜町盆踊り実行委員会

月曜会

- ・盆踊り曲の歌唱
- ・音響担当

鼓 踊

- ・踊り練習会
- ・太鼓練習会
- ・盆踊り会場設営
- ・実行委員会運営
- ・会計 など

神輿会

- ・屋台運営
- ・会場設営、撤去

福釜町内会

- ・補助金交付
- ・会場設営 など

消防団

- ・会場警備
- ・やぐら設営、撤去



事例
5

地域の高齢者

ふれあい喫茶「わくわく」

参加

安城保育園
周辺小学校
医療関係者、企業

企画・運営

北明治福祉委員会

開催支援

市民交流センター

- ・会場確保、提供
- ・講師情報等の提供



～協働が気になったら～

安城市内には以下のとおり市民活動・ボランティアについて相談できる場所があります。事例を見て、自分も参加してみたいと思った方は、まず相談することから始めてみませんか？

また、市民交流センターや社会福祉協議会ボランティアセンターでは、市民活動団体同士の出会いとなるイベントを数多く開催しています。協働のキッカケは、まず協働できる団体と知り合うこと！

ぜひイベントにも参加してください！

問い合わせ先

市民活動に関する相談

安城市民交流センター 電話 0566-71-0601

福祉ボランティアに関する相談

安城市社会福祉協議会ボランティアセンター 電話 0566-77-2941





0566710601 106841 494649

数字文字①
←昔ポケベルで流行った数字文字です。
何を意味するかわかりますか？



11110 724106 8451 114106

～協働

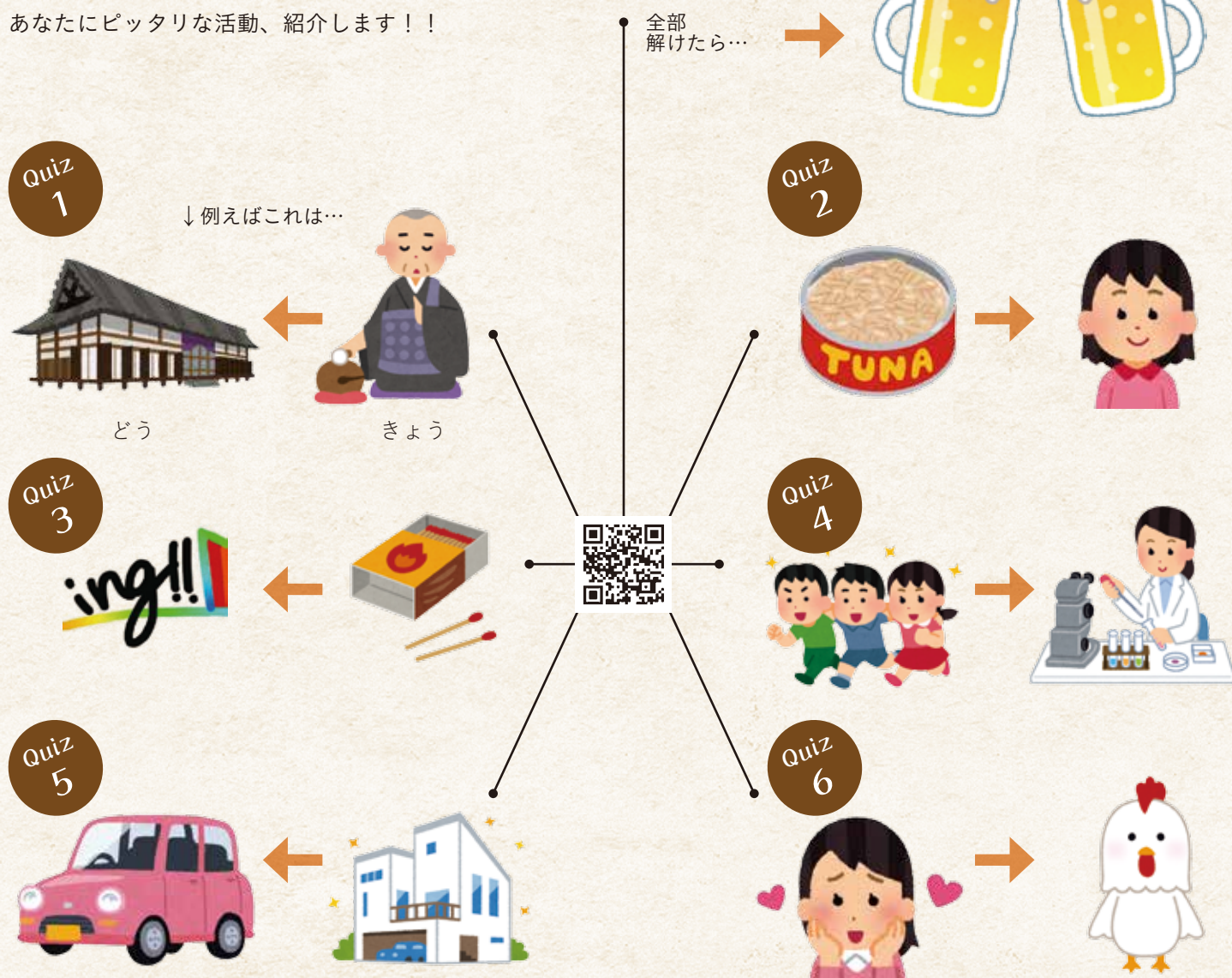
数字文字②
←昔ポケベルで流行った数字文字です。
何を意味するかわかりますか？

協働ハンドブック
あんじょう

Vol. 2

協働 Quiz

下の図は協働に関することばを表しています。
いくつかわかるかな？
わかった方は安城市民活動センターにGO！
あなたにピッタリな活動、紹介します！！



===== quiz ②ツナガル（繋がる）、quiz ③マッチング、quiz ④コラボ、quiz ⑤ティケイ（提携）、quiz ⑥レンケイ（連携） =====

協働ハンドブックあんじょう コネクト vol.2

編集者 コネクト vol.2 編集委員会（市民協働サポータークラブ）

発行者 安城市

発行日 平成 30 年 3 月

===== 数字文字①市民活動センターの電話番号、TEL ほしい、至急よろしく 数字文字②良い人、なにしてる、早よ来い、愛してる =====